

道路事業

いたがひきだ ひきだ

一般県道 板荷引田線 引田工区

(平成 29 年 (2017 年) 11 月供用)

1 事業概要

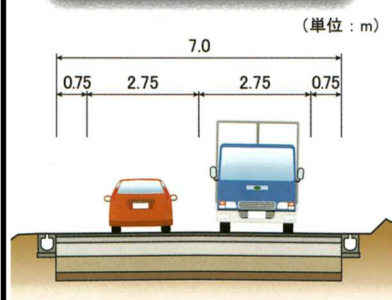
一般県道板荷引田線は、鹿沼市の板荷地区と引田地区を結び、地域の日常生活や産業を支える重要な路線である。

本路線はこれまで峠部の一部区間が通行不能であり、両地区を往来するには大きく迂回する必要があったことから、早急な整備が望まれていた。

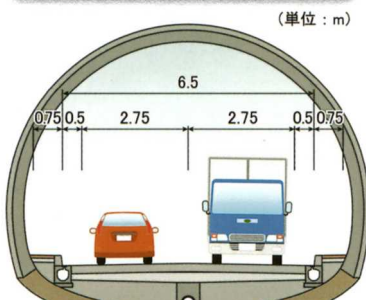
このような中、栃木県では板荷地区と引田地区の交流連携を促進するため、通行不能区間を含む 2.7km について現道拡幅とトンネルの整備を実施し、H29.11 月に供用開始した。



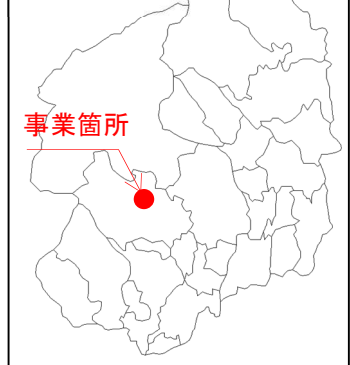
標準横断面図 (一般部)



標準横断面図 (トンネル部)



県内位置図



- ◆事業名：快適で安全な道づくり事業
- ◆事業主体：栃木県
- ◆事業箇所：一般県道板荷引田線 鹿沼市引田工区
- ◆全体延長：2,700m
- ◆主要構造物：名称 松坂トンネル 延長L=703m
- ◆幅員：W=7.0m (トンネル区間W=6.5m)
- ◆総事業費：約37億円【うちトンネル区間 約24億円】
- ◆事業期間：平成17年度～平成29年度(供用開始：H29.11月)



2 主な事業の目的・必要性

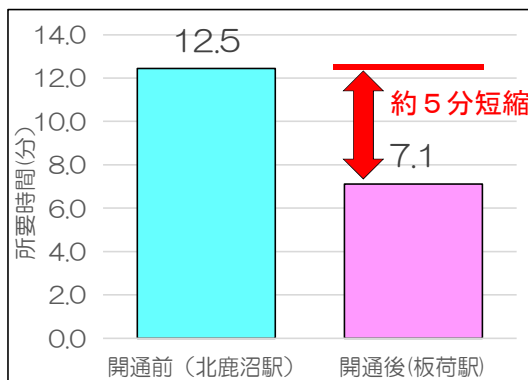
- (1) 生活利便性の向上
- (2) 活力ある地域づくりの促進
- (3) 安全・安心な地域づくりの促進
- (4) 思川開発事業(南摩ダム整備)の支援

3 事業の整備効果等

- (1) 生活利便性の向上

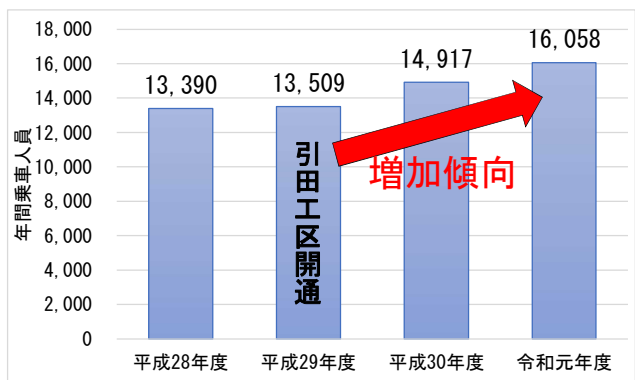
1) 峠部の通行不能区間が解消されたことにより、引田地区の最寄り駅が従来の北鹿沼駅から板荷駅となり、大きな迂回が解消した。引田地区から最寄り駅への所要時間は約5分短縮し、板荷駅では開通後の利用者数が増加している。

○引田地区から最寄り駅への所要時間



「鹿沼土木事務所旅行速度調査」

○東武日光線板荷駅利用者数推移



「出典：令和2年度鹿沼市統計書」

2)通行不能区間が解消された松坂トンネル付近では、平日 657 台、休日 434 台が通行しており、板荷地区と引田地区の地域間の交流・連携に寄与している。

○松坂トンネル通過交通量
(昼間 12 時間)

平日 R3.9.14(火)	休日 R3.9.19(日)
657 台 うち大型車 156 台	434 台 うち大型車 11 台

「鹿沼土木事務所交通量調査」



3)利用者アンケートの結果、開通後「走りやすくなった」、「他地域への移動時間が短くなった」と感じる声が多く見られた。

(2) 活力ある地域づくりの推進

1)地元森林組合にヒアリングした結果、「森林の維持管理が容易になり、木材輸送など業務の効率が上がった」との回答が得られたことから、地域の主要産業である林業の効率化にも貢献している。

○地元森林組合へのヒアリング

- ・森林の維持管理など、開通する前よりも容易になった。
- ・開通したことによって、木材の輸送など、業務の効率が非常に良くなった。



2)周辺地域の事業者へのアンケートの結果、「輸送・業務効率が向上した」と感じる声が多く見られた。

(3) 安全・安心な地域づくりの促進

- 1) 板荷地区と引田地区の往来に際し、土砂災害警戒区域が少ないルートの選択が可能となり、土砂災害の発生による通行止め等のリスクが低下した。

○板荷地区～引田地区における沿道の土砂災害警戒区域数

	整備前ルート (市道 0009 号線経由)	整備後ルート (引田工区経由)
土砂災害警戒区域	12 箇所	5 箇所
土砂災害特別警戒区域	3 箇所	0 箇所
合計	15 箇所	5 箇所

「出典：とちぎ地図情報公開システム（土砂災害警戒区域マップ）」

- 2)利用者アンケートの結果、「迂回路が確保され、生活する上での安心感が向上した」といった安全・安全な地域づくりが促進されたと感じる回答を多数得られた。

(4) 思川開発事業（南摩ダム整備）の支援

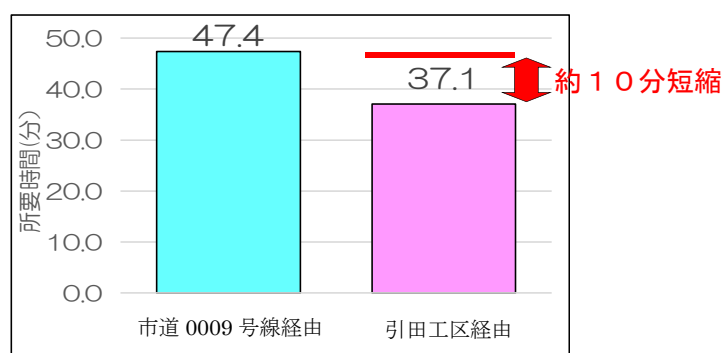
- 1)思川開発建設所へのヒアリングの結果、本工区は「黒川取水・放流工」施工時の土砂搬出ルートとして利用され、工事期間中の安全で円滑な通行が確保されることが確認された。

○独立行政法人水資源機構思川開発建設所へのヒアリング

- ・「黒川取水・放流工」施工時の土砂搬出ルートとして利用している。
- ・思川開発導水路工事及び管理業務に板荷引田線を利用できる利点は大きい。

- 2)南摩ダムは、整備後に観光・交流の拠点としても活用されることから、本路線が日光方面への観光周遊ルートとなることが期待される。本路線を利用することで、所要時間が短縮されることが確認された。（市道 0009 号線経由と引田工区経由との比較）

○南摩ダム～日光方面（土沢 IC）所要時間



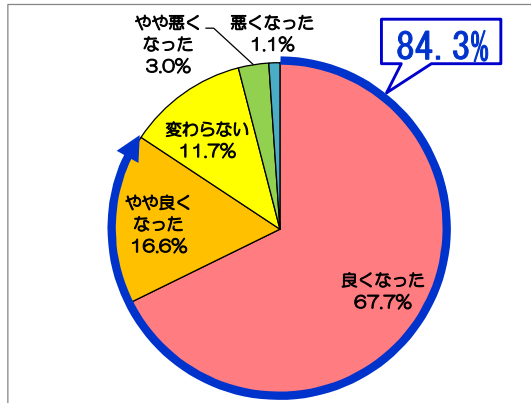
「鹿沼土木事務所旅行速度調査」

4 地元の声（アンケート結果）

本事業の整備効果を検証するため、板荷地区と引田地区の地域住民や事業者を対象に、アンケート調査を実施した。

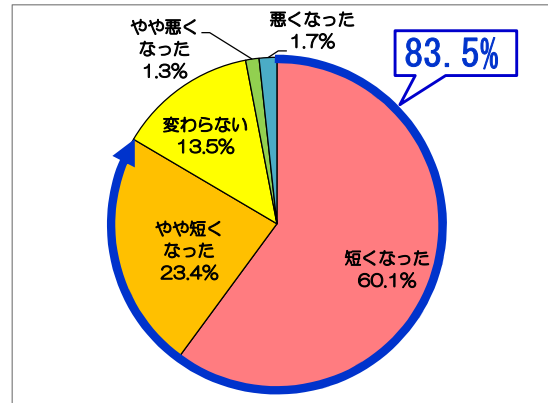
（回答数 546 件／配布数 1050 件：回収率 52% ※有効回答数は設問により異なる。）

(1) 走行性（走りやすさ）



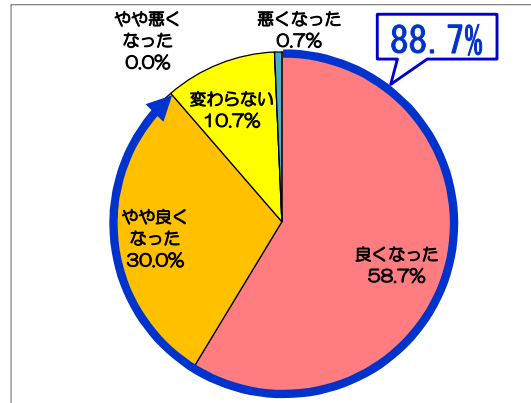
利用者の約 84%が、走行性が良くなったと感じている。

(2) 移動時間



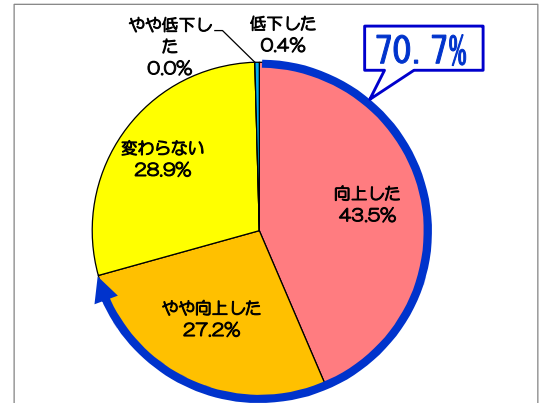
利用者の約 84%が、整備前と比べて移動時間が短くなったと感じている。

(3) 業務への影響



利用者(事業者)の約 89%が、整備前と比べて輸送・業務の効率が向上したと感じている。

(4) 災害時の安心感



利用者の約 71%が、災害発生時の迂回路が確保され、安心感が向上したと感じている。

(6) 自由意見（意見の多かった内容等）

- ◇道路が良くなり利便性が向上した。
- ◇山間地の道路は生活する上で大切。
- ◇悪天候時は助かる。
- ◆信号機、照明、標識等の設置要望。
- ◆ごみの投げ捨てが多い。
- ◇接続する道路の整備促進要望。（鹿沼日光線の道路拡幅、板荷玉田線辺釣工区等）

5 今後の事後評価の必要性及び改善措置について

整備後の交通状況の変化や道路利用者アンケートの結果から、本事業の主な目的である「(1)生活利便性の向上、(2)活力ある地域づくりの促進、(3)安全・安心な地域づくりの促進、(4)思川開発事業（南摩ダム整備）の支援」について、効果が得られたことが確認できた。このことから、今後の事後評価の必要性はないと考えている。

なお、アンケート調査の自由意見で挙げられた「信号機、照明、標識等の設置要望」については、今後の道路利用状況を踏まえながら、さらなる改善の必要性が生じた場合には、地元住民や交通管理者と協議し対応していく。

また、本工区に接続する県道鹿沼日光線や県道板荷玉田線をはじめとする周辺道路の整備要望が高いことから、引き続き安全・安心・快適な通行ができる道路網整備を推進する。

6 同種事業への反映

本事業では、整備施設や事業主体が異なる「思川開発事業（南摩ダム整備）」と連携することにより、用地協力など地元との良好な関係づくりや予算の集中投資による早期効果の発現が図れたほか、ダム関連工事に伴う土砂搬出ルートでの安全で円滑な交通確保など効率的・効果的に整備を進めることができた。

今後も同種事業を実施する際には、関連する事業主体との事前調整を密に行い、計画内容や工事時期を調整しながら、相互に効率的な整備が図られるよう努めていく。

栃木県 県土整備部 道路整備課

TEL : 028-623-2412 FAX : 028-623-2417
HP : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/h04/index.html>
E-mail: doro-seibi@pref.tochigi.lg.jp

VERY
GOOD
LOCAL
とちぎ